

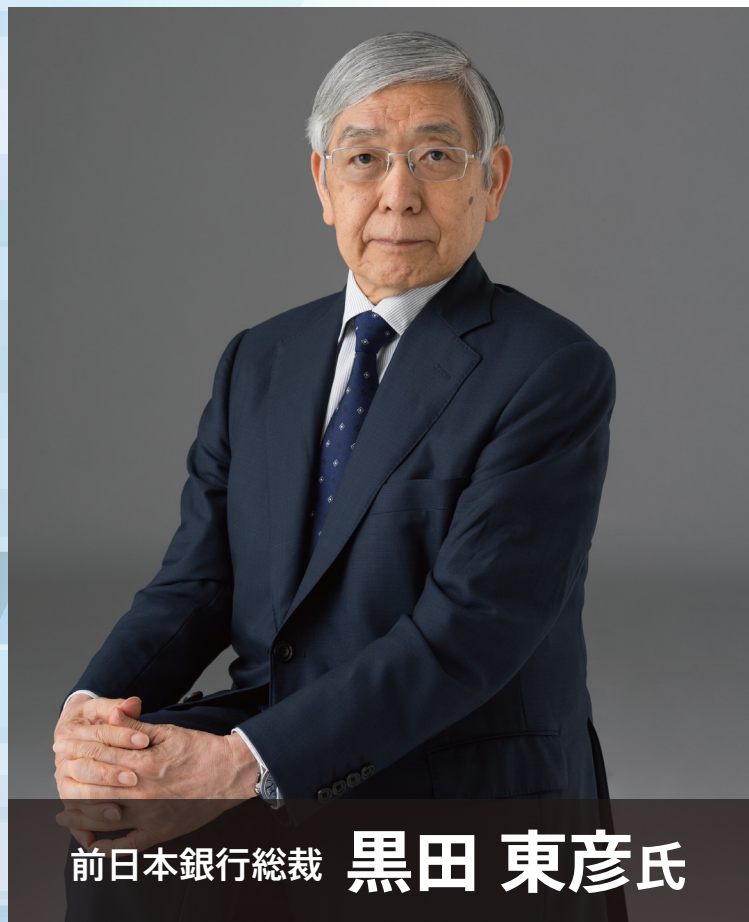
新学長就任記念シンポジウム 東京経済大学

2026年の日本経済

金利・為替・成長のゆくえ

日々のニュースに振り回されず、「知っている」を「判断できる」へ。

日本経済が大きな転換点を迎える中、金利・為替・成長の構造変化を多角的に捉え、個人として経済・投資とどう向き合うべきか。「自ら考え、判断するための視点」の重要性を議論します。



前日本銀行総裁 **黒田 東彦氏**



ANAホールディングス株式会社
上席執行役員グループ経営戦略室長 **礒根 秀和氏**



経済アナリスト／
大阪公立大学客員准教授 **馬淵 磨理子氏**

2026年 リアル&WEB ハイブリッド開催

5月13日 **水** **入場無料**
18:00～20:30
(開場 17:30)

会場:日経ホール 東京都千代田区大手町1-3-7(日経ビル3F)

事前登録



申し込み締め切り

会場聴講:5月7日(木) 12:00

オンライン視聴:5月13日(水) 20:30

お申し込み多数の場合は抽選のうえ、ご登録いただいたメールアドレス宛にご連絡いたします。
当落の発表はメールのご連絡をもって代えさせていただきます。



主催:東京経済大学 学長 **小川 英治**

主催:東京経済大学 後援:日本経済新聞社 メディアビジネス

登壇者プロフィール



黒田 東彦氏

1944年生まれ。東京大学卒業後、大蔵省（現財務省）に入省し、財務官やアジア開発銀行総裁を歴任。2013年に日銀総裁へ就任し、大規模な金融緩和政策を主導。長期にわたりデフレ脱却と経済成長の実現に取り組み、日本の金融政策に大きな影響を与えた。



礒根 秀和氏

東京大学経済学部卒業後、全日本空輸に入社。財務・経理・経営企画部門を中心にキャリアを重ね、国際協力銀行への出向も経験。ANAホールディングスで財務企画・IR部長を経て執行役員に就任。現在は上席執行役員としてグループおよび航空本体の経営戦略を統括。



馬淵 磨理子氏

経済アナリスト／大阪公立大学客員准教授。京都大学公共政策大学院修了後、金融機関勤務を経て独立。国内外の金融市場やマクロ経済分析を専門とし、テレビ・新聞・講演などで幅広く情報発信を行う。企業アドバイザーや執筆活動にも携わり、分かりやすい経済解説で知られる。



小川 英治学長

1981年一橋大学商学部卒業後、同大学院で博士（商学）取得。金融・ファイナンスを専門とし、一橋大学大学院教授を経て、東京経済大学経済学部教授、同学部長を歴任。財務省審議会会長やANAホールディングス株式会社社外監査役等を務め、2026年4月、東京経済大学新学長に就任。



司会: 榎戸 教子氏

フリーアナウンサー。大学時代にスペイン・サラマンカ大学へ留学後、2008年より経済・マーケット報道に携わり、リーマンショックや東日本大震災時の情報発信を担当。BSテレ東番組のメインキャスターを歴任し、現在は日経CNBCやラジオNIKKEIで活躍している。

Time Schedule

- 18:00～18:05** 開会挨拶 [小川英治学長]
- 18:05～18:45** 第1部: 基調講演 [黒田東彦氏]
「2026年の日本経済
—金利・為替・成長のゆくえ—」
- 18:45～19:15** 第2部: 対談 [黒田東彦氏×小川英治学長]
「2026年の日本経済—
金利・為替・成長のゆくえ 小川学長が聞く—」
- 19:30～20:30** 第3部: パネルディスカッション
「2026年「円」の真価と
日本企業のパフォーマンス」
黒田東彦氏・礒根秀和氏・
馬淵磨理子氏・小川英治学長
[司会] 榎戸教子氏

※講演者・講演内容・タイムスケジュールは事前の予告なく変更となる場合がございます。
あらかじめご了承ください。

●事前登録は

<https://events.nikkei.co.jp/81332/>

●お問い合わせは

toukeidai2026@info.email.ne.jp



■日経ホールへのアクセス(日経ビル3F)



交通案内

- 地下鉄「大手町駅」下車C2b出口直結
- 東京メトロ千代田線
「大手町駅」神田橋方面改札より徒歩約2分
 - 丸ノ内線
「大手町駅」サンケイ前交差点方面改札より徒歩約5分
 - 半蔵門線
「大手町駅」皇居方面改札より徒歩約5分
 - 東西線
「大手町駅」西改札より徒歩約9分
「竹橋駅」4番出口より徒歩約2分
 - 都営地下鉄三田線
「大手町駅」大手町方面改札より徒歩約6分

ABOUT

東京経済大学

本学は1900年の創立以来、「責任と信用」を建学の精神に実学の伝統を積み重ねてきました。2026年の小川英治学長就任を記念して開催する今回のシンポジウムが、変化の激しい現代における経済のゆくえをみなさまと共に考える機会となれば幸いです。